

社說

北東政變の結果 み注目す可し

支那の政變は帝國の内事にして其政變が如何に變ずるも關係す可さ限りに非ず我國人は相變らず友親の友國として之に對し其文明進歩を祈るのみなれども此の政變の結果如何を考ふれば自から外交上に影響する所なきを得す此一點に至れば當局者たるものは大に耳目を銳敏にして形勢の趨く所を察し自から之に處するの方略なる可らず抑も過般の改革は光緒帝が康有爲輩一派政客の説を容れ自から施行したるものにして云はゞ皇帝と少壯政客との發意に外ならず然るに今回之の政變に西太后政を攝して皇帝は怡若隱居の姿を爲り少壯の改革派は罪を得て逮捕せられたりとされば實際には單に所謂急激の改革を止めたるを以てにして北京の政界には格別の變動を及ぼさるやとふに我輩の所見を以てすれば決して然らず本來少壯政客の改革説は單に康有爲等の自發に非ずして其背後には自から隱然たる勢力の存在を認めざるを得ず其勢力とは即ち張之洞の一派にして張は日清戰爭以來、大に改革説を主張して北京朝廷に建白する所から異る所あらんなれども他國の例に倣ひ其文物を輸入して自國の改革を行はんとするの一点に於ては目的を同うして共に改進々歩の精神に外ならざるが故に康等は實に背後の勢力を頼んで其説を主張し皇帝の採用を得ると同時に張の勢力を自から北京朝廷の間に伸びて失ひたりと云ひながら自入は外交の衝に當隨て外交上にも影響を及ぼしたるふとならんに反して彼の李鴻章が戦後、從來の勢力を知る可し康等の急激説と張の改革説とは自から異る所あらんなれども他國の例に倣ひ其文物を輸入して自國の改革を行はんとするの一点に於ては目的を同うして共に改進々歩の精神に外ならざるが故に康等は實に背後の勢力を頼んで其説を主張し皇帝の採用を得ると同時に張の勢力を自から北京朝廷の間に伸びて失ひたりと云ひながら自入は外交の衝に當隨て外交上にも影響を及ぼしたるふとならんに反して彼の朝廷に於ける張之洞一派の勢力は自此機会に李の一派が其勢力を回復するのみわらんには自から外交上にも影響して或は從前と反對の現象を見るに至るふとならん或は今回の政變も内面書き處には何か外國に連絡する事情あるに非ざるか又英國艦隊の運動は

が政變と同時に遽に活潑の態度を呈したるが如きも其邊の事情に對して警戒するの意味に由でたるものには非ざるかなとの説もあればも漫然たる世間の臆測、未だ信を置くに足らず我輩に於ては今日まで知り得たる報道に據り政變の原因は外に關せずして全く内より發したるの事實を認むるの外なきのみ左れば今回の政變は政府の故老中滿洲出身の輩が漢人排斥の目的に出でたるものにして全く部内の輶轍に外ならずとして觀察するふを穩當ならんなれども左るにても其結果を如何と云ふに満洲出身の故老中表面に内外の事に覺る可き人物ありや否や覺束なかる可し然るに李鴻章は漢人出身に外ならざれども近來志を得ずして自から失意反對の地位に立たる其上に兼てより西太后の親任も淺からずと云へば今度の攝政は恰も李の勢力回復の機運を開きたるものと認めざるを得ず李は決して守舊の人物に非ず否な文明の政治家を以て自から任ずるものなれば國事の改進に反對して之を妨ぐるの舉動なきは萬々信ずる所なれども果して斯る成行を見るときは北京政界に於ける權力消長の事實が自から外交上に影響を及ぼすは必然にして其關係する所は少小ならざる可し故に今度の事件は單に國內の事にして他國に關係なしと云ひながら自から外交上に影響して新現象を呈出するの結果は實際に免かる可らざる我外交家たるものは能く觀察を密にし其變に處して機宜を誤らざらんと我輩の切望に據へざる所なり

置きしに今や火の手は意外に廣く燒となれり。予は昨日の通信を授へ函するまで、は流石に自警團の報を確信するも、能はざりしに已にし崩御の報を確信するも、能はざりしに已にして北方より達する諸電報は事態の益々容易ならざるものあるを示し、皇帝毒殺せられたりと、の風説盛に傳へられたり茲に先づ、今朝までに北京發の諸電報を見るに曰く「皇上病勢甚だ重く群臣狼狽甚し、今日の上諭によて廢帝有爲の位記を剣奪し之を逮捕して斬罪に處すべきことを命じたり其罪名は不軌を疎れるど云ふにあり、張陰桓亦た逮捕及び其の財産の沒收を命ぜらる」と又曰く「今日は終日北京に於ける各國公使は日國の臣民を保護の爲に軍隊を北京に送るべきことを總理衙門に通じ、せり各國公使は亦た親しく總理衙門に到りて皇帝の容態を問ひ且つ其の病源を尋ねたり」と又曰く「吳觀察及張庚兩人の徒兵を没收せらる」と又曰く「皇帝は去る廿一日に於て崩御わらせたりと承る」と皇帝の生死は第一の疑問にて或人は康有爲及び其徒逮捕の爲め城門を警衛せるに由りて皇帝崩御の児報も然れど、多數の電報は皇帝の崩御を傳へ昨夜に至りて之を疑ふ者すら次第に減じ行きし様子にて實に口耳相承すとも言ふべき有様なものあるを示し、皇帝毒殺せられたりと、の風説盛に傳へられたり茲に先づ、今朝までに北京發の諸電報を見るに曰く「皇上病勢甚だ重く群臣狼狽甚し、今日の上諭によて廢帝有爲の位記を剣奪し之を逮捕して斬罪に處すべきことを命じたり其罪名は不軌を疎れるど云ふにあり、張陰桓亦た逮捕及び其の財産の沒收を命ぜらる」と又曰く「今日は終日北京に於ける各國公使は日國の臣民を保護の爲に軍隊を北京に送るべきことを總理衙門に通じ、せり各國公使は亦た親しく總理衙門に到りて皇帝の容態を問ひ且つ其の病源を尋ねたり」と又曰く「吳觀察及張庚兩人の徒兵を没收せらる」と又曰く「皇帝は去る廿一日に於て崩御わらせたりと承る」と皇帝の生死は第一の疑問にて或人は康有爲及び其徒逮捕の爲め城門を警衛せるに由りて皇帝崩御の児報も然れど、多數の電報は皇帝の崩御を傳へ昨夜に至りて之を疑ふ者すら次第に減じ行きし様子にて實に口耳相承すとも言ふべき有様なものあるを示し、皇帝毒殺せられたりと、の風説盛に傳へられたり茲に先づ、今朝までに北京發の諸電報を見るに曰く「皇上病勢甚だ重く群臣狼狽甚し、今日の上諭によて廢帝有爲の位記を剣奪し之を逮捕して斬罪に處すべきことを命じたり其罪名は不軌を疎れるど云ふにあり、張陰桓亦た逮捕及び其の財産の沒收を命ぜらる」と又曰く「今日は終日北京に於ける各國公使は日國の臣民を保護の爲に軍隊を北京に送るべきことを總理衙門に通じ、せり各國公使は亦た親しく總理衙門に到りて皇帝の容態を問ひ且つ其の病源を尋ねたり」と又曰く「吳觀察及張庚兩人の徒兵を没收せらる」と又曰く「皇帝は去る廿一日に於て崩御わらせたりと承る」と皇帝の生死は

れども改革の結果は既に既に
にして西太后派の勢力日
れ今日の事ある故にして
有爲の逮捕は其の攝政時
時勢に通曉せる支那人の
は或は茲にあるべし皇帝
ば體制は故恭親王の孫に
の権利は有せざるべしと
有爲が皇帝毒殺を企圖せ
らが康が果して斯かる馬
るならんとは誰人も信ず
しと雖も其の逮捕の理由
ふにありて即ち皇帝殺害
以にして西太后派が康を本
過ぎざるの觀より康は本
るゝのなれども人材豈用の
事に任せられたる後に至
べしと疑はれ西太后派と
ふとあり今之を察するにて
して改革を實行せる時に至
してを得たるべしと雖も
等ふに至りて康却て西太
ならんか

當る者は自ら皇帝派に衰ふるの狀あり是に受くるに至る。改革の急先鋒たる康有为は、代の初幕なりと是れ言にして陰謀の根柢の崩御若し事實ならして皇帝の弟は相國云ふ前通信中には康有为の說を記し置き云ふりとの說を記し置き鹿氣たるふとをなせる能はざる所なるべくは不軌を圖れると云ふの説の出つて起る所は不軌を圖れん爲めの口實にして指目せられたる皇帝と西太后と相和在りて康は西太后の兩々相對して權力を軍備を制限するには後後に嫉惡せられたる國教員の設計も已に提出するの遺族扶助料法案の結果として工部主官中席次は如何に萬圓と見定すの倉走を經て臨時縣會を招集するに至りと云ふる。○新潟縣會費概算總額の次にて報道するに至る。○宮中庶務局の幹事は桂大將軍の次にて報道するに至る。○マニス記者は之を記録するに至る。○紐育園の開設は之を記録するに至る。○ルド氏著し「昨日の遊の旨を記す」

り西太后攝政、皇帝崩御の報に加へて有る南海先生康有爲の逮捕の命ありしるど人心の倘々は更に一層を加へ當地の有志臺に宛てて總理衙門及び南洋大臣より電せり其は康有爲は天津を發して南下せるより上海に於て之を逮捕せよとの命令なり方には佛祖界金租碼頭を警戒して船舶の準備せり先づ吳淞に來れるエル・ドラン船舶の天津より來るものを探索せしめ尙には水上警察の外人及び清人至りて居留の捕吏なりと稱して搜索を遂げしが康を能はざりき已にして午後三時新嘉坡金租船に就きて搜索を遂げしも全く得る能はべしとは一般の信ずる所なり然れども昨き度より各國領事に向ひ康有爲は去廿日天津次第にして尙ほ天津北京の間に潜伏せる發せる等なれば各領事には居留地會に照其の逮捕に盡力せられた旨を請へり兎に西太后攝政の裏面には大々的の陰謀存するは今に於て愈々現然たる次第なるが康有爲の倒故に逮捕を命ぜられたるやは疑問なり爰に西太后攝政の裏面には大々的の陰謀存するは今に於て愈々現然たる次第なるが康有爲の倒故に逮捕を命ぜられたるやは疑問なり

名な
家の
地道
報達
によ
上海
きて
さき
は一
地雷
搜索
ト號
碼頭
其の
さり
しき
なる
日道
津を
會し
する
爲は
之を

○成功の見る近頃、生产力に費消すのを生産力にかける間に、人との競争は萬磅を有すに過ぎず、陸を経て三萬位くべし駆逐にならばすべきはあり

八が六七
て精
この世
八の駄
ハの駄
をもと
よりは
國の事
富、其
萬を女
れ自負
界にか
れで異
技師

の請託業者等の在る所に於て最も多く見られる事である。即ち、世間の通例によれば、輸入業者が輸入する貨物の販賣を手配する場合、輸入業者は輸入の手配をするが、販賣の手配は輸出業者等の手に委ねられるのである。

の各國統計をよりて毎年に随分に變化する。試験結果によれば、生産力は年々増加の一途を辿り、現在は世界の生産量の約半分を占め、その勢いは止むを知らずである。

國に民地を其の主なるものとするも、軍備を軍艦と軍隊とを有する者に對する者である。軍艦は海軍軍艦と陸軍軍艦とある。軍隊は陸軍軍隊と海軍軍隊とある。軍艦と軍隊の主なるものは、軍艦は艦隊と軍隊は軍團とある。軍艦と軍隊の主なるものは、軍艦は艦隊と軍隊は軍團とある。軍艦と軍隊の主なるものは、軍艦は艦隊と軍隊は軍團とある。